

H28年7月11日

建畠哲委員からいただいたご意見

- 今回の国際博覧会では、アートと国際博覧会の新しい可能性を開発してはどうか。
 - ・アートも近年著しく進化と変化をして新しい価値を社会にもたらすことに挑戦している。
 - ・例えば、従来はディズニーランドや美術館のように囲い込んだ空間で「非日常的な空間体験」を提供する閉鎖的なものが多かったが、近年は越後妻有の大地の芸術祭や瀬戸内芸術祭のように、現実の生活の場や田園、自然の中に分散し融合することで新しい文化を生み出している。
 - ・従来国際博覧会の形や過去の成果に捉われず、アートの新しい役割、機能を創出する新しい形を創出することが大切と考える。

- テーマ「健康」とシンクロするアートについて
 - ・健康と関係するアートとして想定できるものは、大阪府も熱心に取り組んでいるアウトサイダー・アート(芸術の専門教育を受けていない人々や見せることを想定せずに制作された芸術)のようなものがある。
 - ・このようなアートだけを扱うとテーマを矮小化してしまう可能性もあるという点に留意する必要がある。

- 従来日本の国際博覧会はアートを重視してこなかったため、今回はアートの独自展開を計画してはどうか。
 - ・大阪万博では、結果として太陽の塔や万博美術館が残って、時を経て結果として評価を受けているが、当初からアートが一つの柱として設定されていなかった。
 - ・愛知万博では、アートの展開を行ったが規模が小さくあまり成功したとは言えない。

- アートディレクターについて
 - ・従来日本の国際博覧会のように付け足しのアートプロジェクトにしないためには、アートディレクターを当初から計画に参画させ、新しい国際博覧会と一緒に開発することも大切。
 - ・従来は実績が豊富で著名な方がアートディレクターを務めることが多いが、そうでない新しい展開も検討すべき。